

によってこととなる。従って、後作物に対する安全性については、できるだけ幅広く多くの作物について明らかにしておくことがのぞましい。

またグリホセートは、この試験において、なたねを含む三つの作物に何ら悪影響を与えていないことに注目していただきたい。

(5) 結 論

結論として除草効果および後作物に対する安全性の点から、ハマスゲに対する除草剤として現在もっと期待のもてる薬剤はグリホセートである。この薬剤は「茎葉処理すると、速やかに吸収され、植物体内全体に移行し、アミノ酸代謝を攪乱させることによって植物の生育を停止させ、徐々にクロロシスをおこし枯死させる。宿根性雑草では、茎葉から吸収されて地下茎に移行し、地下貯蔵器官を破壊する⁵⁾。」という性質をもっており、殺草スペクトラムもきわめて

広く、しかも土壌中ではすみやかに分解されて有害物質を形成しないとされている。

現在までのところ、残念ながら農耕地での使用がみとめられていないが、今後それが認められるならば、農耕地におけるハマスゲの有力な防除薬剤となるであろう。

非農耕地等特殊な条件では、先に紹介したテトラピオンのほか、塩素酸塩剤なども利用できよう。

なお、筆者らは黒色マルチ栽培がヨモギやヒルガオの防除に有効であり、早掘かんしょ等を栽培しながらこれらの雑草を殺滅できることをみとめている。しかし、ハマスゲは萌芽の先端が鋭くとがっているので、マルチを破って生長してしまう。残念ながら、黒色マルチによる防除の可能性はないようである。

引 用 文 献

- 1). 植木邦和・中村 弘・小野 宏：宿根性雑草ハマスゲの防除に関する基礎研究—Tuberの発芽と温度ならびに湿度との関係—。雑草研究 4, 61～67 (1965)。
- 2). 石井邦作・山路木曾男・真部辰夫：ハマスゲの繁殖とTFPによる防除。雑草研究 12, 45～49 (1971)。
- 3). R. D. WILLIAM and G. F. WARREN : Competition Between Purple Nutsedge and Vegetables. WEED SCIENCE 23 (4) 317～323 (1975)。
- 4). 鹿児島農試徳之島糖業支場：九州雑草防除研究会第14回例会資料 (1978)。
- 5). 香川繁孝・飯塚慶久・古山 清・後藤宗玄：農薬便覧 第4版 509 (1976)。

昭和52年度冬作(麦類・いぐさ・水稻刈跡) 関係除草剤、生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会技術部

昭和52年度冬作関係除草剤・生育調節剤の作用性および適用性試験成績検討会は、昭和53年

9月1日（金），薬業健康保険会館（東京）において開催した。

実施された。供試薬剤の成分は，第1表に示す通りである。

本年度の供試薬剤はのべ32薬剤であり，このうち除草剤は30剤，生育調節剤は2剤で，作用性試験として6点，適用性試験はのべ112点が

検討会は，各薬剤別に試験結果の報告，検討ののち，実用化に対する判定を行ない，同日公表したが，その概要をここに報告する。

第1表 昭和52年度冬作関係除草剤・生育調節剤の有効成分および判定結果一覧表

A. 除 草 剤

対象作物	薬 剤 名	剤型	有効成分および含有率	委託会社	試験の種類	判 定	判定理由および内容
麦 類 (1) 小 麦	1) SSH-42	乳	・1-(5-tert-ブチルイソキサゾール-3-イル)-3-メチルカーバメイト 50%	塩野義製薬	作用性	—	
	2) SSH-43	粒	・1-(5-tert-ブチルイソキサゾール-3-イル)-3,3-ジメチルウレア 1%	同 上	作用性	—	
	3) B-3015	乳	・S-(4-クロルベンジル)N,N-ジエチルチオールカーバメイト 50%	クミアイ化学	適用性	実・継	播種後土壌処理で，温暖地東部へ拡大，今後更に地域拡大をはかる。
	4) B-3015 ・P	粒	・S-(4-クロルベンジル)N,N-ジエチルチオールカーバメイト：ベンチオカーブ 8% ・2-メチルメルカプト-4,6-ビスイソプロピルアミノ-S-トリアジン：プロメトリン 0.8%	同 上	適用性	実・継	播種後土壌処理で，温暖地東部へ拡大。又，生育初期処理で適用土壌が拡大された。今後，地域拡大，条件拡大をはかる。
	5) S-28	乳	・0-エチル-0-(3-メチル-6-ニトロフェニル)-N-セカンド-ブチルホスホロチオアミデート 50%	クレマート研究会	適用性	実・継	温暖地西部への拡大可能，今後地域拡大，条件拡大の検討。
	6) ANK-553	乳	・N-(1-エチルプロピル)3,4-ジメチル-2,6-ジニトロベンゼンアミン 30%	ANK-研究会	適用性	実・継	前年通りの使用基準で実用化可能。今後，地域拡大。

対象作物	薬 剤 名	剤型	有効成分および含有率	委 託 会 社	試験の 種 類	判 定	判定理由および内容
(1) 小 麦 (つづき)	7) DBN	粒	・ 2,6-ジクロロベンゾ ニトリル 2.5%	兼 商	適用性	実・継	温暖地域、生育初期 (スズメノテッポウ1.5 Lまで)で実用化可 能。更に効果確認、 地域拡大。
	8) DBN	水和	同 上 45%	同 上	適用性	実・継	温暖地域、生育初期 (スズメノテッポウ 1.5 Lまで)で実用化可 能。更に効果確認、 地域拡大をはかる。
	9) MOUH	水和	・ 2,4,6-トリクロロ- 4'-ニトロフェニルエ ーテル：MO-338 ・ 3-(3,4-ジクロロ フェニル)-1-メ トキシ-1-メチルウ レア：リニュロン 10%	三井東圧化学	適用性	実・継	本年度試験結果より 地域拡大し、温暖地 以西で実用化可能。 効果の確認。
(2) 二条大麦	1) トリブニール	水和	・ 1-(2-ベンゾチア ゾリル)-1,3-ジメ チル尿素 70%	日本特殊農薬 製造	適用性	実・継	昭和48年度までの成 績と本年度の成績か ら、地域拡大、条件 拡大が認められた。 更に、地域・条件拡 大の検討。
	2) S-28	乳	・ 0-エチル-0-(3 -メチル-6-ニトロ フェニル)-N-セカ ンダリ-ブチルホスホ ロチオアミデート 50%	クレマート 研 究 会	適用性	実・継	温暖地西部が適用地 域に追加。 更に、地域拡大の検 討を行う。
	3) B-3015 ・P	粒	・ ベンチオカーブ 8% ・ プロメトリン 0.8%	クミアイ化学	適用性	実・継	温暖地東部への拡大、 生育初期処理で砂壌 土への拡大が認めら れた。今後更に、適 用地域・条件の拡大 をはかる。
	4) DBN	水和	・ 2,6-ジクロロベンゾ ニトリル 45%	兼 商	適用性	実・継	土壌処理で温暖地西 部、生育初期処理で 温暖地での適用性が 認められた。今後、 適用条件・地域拡大。
	5) MOUH	水和	・ MO-338 50% ・ リニュロン 10%	三井東圧化学	適用性	実・継	温暖地西部以西が適 用地域として追加。 今後、裸麦への適用 拡大など。

対象作物	薬 剤 名	剤型	有効成分および含有率	委 託 会 社	試験の 種 類	判 定	判定理由および内容
(2) 二条大麦 (つづき)	6) ANK-533	乳	・ N-(1-エチルプロピル) 3,4-ジメチル-2,6-ジニトロベンゼンアミン 30%	ANK-研究会	適用性	実・継	二条大麦に対して適用性が認められた。今後、確認と適用地域・条件の拡大をはかる。
	7) DCMU	水和	・ 3-(3,4-ジクロロフェニル)-1,1-ジメチル尿素 78.5%	丸和バイオケミカル	適用性	継	点数不足。
	8) Z-1390	水和	・ 成分未公開 40%	石 原 産 業	適用性	継	更に検討を要す。 (成分未公開)
	9) KT-55	水和	・ 成分未公開 50%	協和醗酵工業	適用性	継	同 上
	10) KT-59	水和	・ 成分未公開 50%	同 上	適用性	継	同 上
(3) い ぐ さ	1) NK-049・S	粒	・ 3,3'-ジメチル-4-メトキシベンゾフェノン：カヤメトン 8% ・ 2-メチルチオ-4,6-ビス(エチルアミノ)-S-トリアジン：SAP 3%	日 本 化 薬	適用性	継	本年度は薬害もなく、効果も安定しているが、更に検討、確認する。
	2) SSH-43	粒	・ 1-(5-tert-ブチルイソキサゾール-3-イル) 3,3-ジメチルウレア 1%	塩 野 義 製 薬	適用性	継	効果も不安定、又薬害もみられるので、更に検討を要する。
	3) G-315	乳	・ 5-tert-ブチル-3-(2,4-ジクロロ-5-イソプロポキシフェニル)-1,3,4-オキサジアズリン-2-オン：オキサジアゾン 12%	ロ ン ス タ ー 普 及 会	適用性	中 止	場所によって薬害が発生、要因として土壌条件的には整理ができない。
	4) CG-102	粒	・ 2-メチルチオ-4-エチルアミノ-6-(1,2'-ジメチルプロピルアミノ)-S-トリアジン：ジメタメトリン 1.1% ・ S-(2-メチル-1-ピペリジル-カルボニルメチル)-0,0-ジ-n	アビロサン・ワイダー普及会	適用性	継	効果、薬害ともに問題ないが、1地域1点の試験でもあり、更に検討が必要。

対象作物	薬 剤 名	剤型	有効成分および含有率	委託会社	試験の 種 類	判 定	判定理由および内容
(3) いぐさ (つづき)			ープロピルジチオホスフ ェート：ピペロホス 4.4%				
(4) 水稲刈跡	1) DPX－ 1108	水溶	・アンモニウムエチル－カ ーバモイルフォスフォネ ート 41.5%	デュポン・フ ァーイースト 日本支社	適用性 〔ミズ ガヤ ツリ〕	継	処理時期、処理量の 検討。
	2) DPX－ 1108	水溶	同 上	同 上	適用性 〔クロ グワ イ〕	継	効果不十分。
	3) GW－7	液	・マレイン酸ヒドラジドコ リン塩 58%	ヒロバートル 研 究 会	適用性 〔ウリ カワ〕	継	処理時期、処理量に ついて再検討。
	4) GW－7	液	同 上	同 上	適用性 〔オモ ダカ〕	実・継	寒冷地南部、温暖地 東部で実用化可能。 更に効果の確認と条 件拡大をはかる。
	5) GW－7	液	同 上	同 上	適用性 〔ミズ ガヤ ツリ〕	継	効果が変動。 処理時期、処理量に ついて再検討。
	6) MCP・ BAS	液	・MCP (Na) 6% ・ベンタゾン (Na) 30%	グラスジン 普 及 会	適用性 〔ホタ ルイ〕	継	効果不足。 再検討を要する。
	7) MCP・ BAS	液	・MCP (Na) 6% ・ベンタゾン (Na) 30%	グラスジン 普 及 会	適用性 〔ミズ ガヤ ツリ〕	実・継	暖地早期栽培におい て実用可能。更に、 効果の確認と地域・ 条件拡大をはかる。
	8) MCP・ BAS	液	同 上	同 上	適用性 〔コウ キヤ ガラ〕	継	効果不足につき、再 検討。

B. 生育調節剤

対象作物	薬 剤 名	剤型	有効成分および含有率	委託会社	試験の 種 類	判 定	判定理由および内容
小 麦	C・C・C	液	・(2－クロロエチル)－ トリメチル－アンモニウ ム塩 46%	北海三共、 日本サイアナ ミッド	適用性	継	一応、倒伏防止効果 は認められる。更に、 処理時期と薬害の検 討が必要。

対象作物	薬 剤 名	剤型	有効成分および含有率	委 託 会 社	試験の 種 類	判 定	判定理由および内容
い め さ	K G - 772	顆粒	・成分未公開	田 中 商 店	適用性	継?	処理量600倍前後で 検討が望ましいが、 作用性の検討が必要。

第2表 昭和52年度冬作関係実用化除草剤使用基準一覧表

区 分	薬 剤 名	処 理 法	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
小 麦	B-3015 乳	土壌処理	播 種 後、	㊥ mL/a 60～80	壤土～埴土	温暖地以西	1). イネ科雑草優占圃 を対象とする。 2). 砕土・整地をてい ねいに行って散布す る。〔水田裏作〕
				㊥ mL/a 50～60	砂 埴 土		
	B-3015・ P 粒	土壌処理	播 種 後、	㊥ g/a 400～600	壤土～埴土	温暖地以西	1). 砕土・整地をてい ねいに行って散布す る。〔水田裏作〕
				㊥ g/a 300～400	砂 埴 土		
		生育初期 処 理	スズメノテッポウ 1.5 葉期まで、	㊥ g/a 300～500	壤土～埴土	温暖地西部 以西	
				㊥ g/a 300～400	砂 埴 土		
	S-28 乳	土壌処理	播 種 後、	㊥ 30 mL/a	砂埴土～埴 土	温暖地以西	1). 砕土・整地をてい ねいに行って散布す る。〔水田裏作〕
	ANK- 553 乳	土壌処理	播 種 後、	㊥ mL/a 30～50	砂埴土～埴 土	温暖地以西	1). 覆土が著しく浅い 場合には、薬害が出 やすいので注意する。 〔水田裏作〕
	DBN 粒	生育初期 処 理	スズメノテッポウ 1.5 葉期まで、	㊥ g/a 300～400	壤土～埴土	温 暖 地	1). 砕土・整地をてい ねいに行い均一散布 に留意する。
	DBN 水和	生育初期 処 理	スズメノテッポウ 1.5 葉期まで、	㊥ g/a 20～25	壤土～埴土	温 暖 地	1). 砕土・整地をてい ねいに行い均一散布 に留意する。
MOUH 水和	土壌処理	播 種 後、	㊥ g/a 40～60	壤土～埴土	温暖地以西	1). 覆土が著しく浅い 場合には、薬害が出 やすいので注意する。 〔水田裏作〕	
			㊥ g/a 40～50	砂 埴 土			
二条大麦	トリブニール 水和	土壌処理 と	播 種 直 後 と	㊥ g/a 30～40	壤土～埴土	温暖地以西	〔水田裏作〕

区 分	薬 剤 名	処 理 法	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
二条大麦 (つづき)	トリブニール (つづき)	生育初期 処 理	スズメノテッポウ 2,3葉期まで(麦 3葉期まで)。	㊟ g/a 20～30	砂 壤 土	暖 地	
	S-28乳	土壌処理	播 種 後	㊟ 30ml/a	砂壤土～埴 土	温暖地以西	1). 覆土・整地をてい ねいに行って散布す る。〔水田裏作〕
	B-3015・ P粒	土壌処理	播 種 後	㊟ g/a 400～500	壤土～埴土	温暖地以西	1). 砕土・整地をてい ねいに行って、散布 する。〔水田裏作〕
				㊟ 300g/a	砂 壤 土		
		生育初期 処 理	スズメノテッポウ 1.5葉期まで。	㊟ g/a 300～500	壤土～埴土	温暖地西部 以西	
				㊟ g/a 300～400	砂 壤 土		
	DBN 水和	土壌処理	播 種 後	㊟ g/a 20～25	壤土～埴土	温暖地西部	1). 砕土・覆土はてい ねいに行って、均一 散布に留意する。 〔水田裏作〕
		生育初期 処 理	スズメノテッポウ 1.5葉期まで。	㊟ g/a 20～25	壤土～埴土	温 暖 地	
	MOUH 水和	土壌処理	播 種 後。	㊟ g/a 40～60	壤土～埴土	温暖地以西	1). 覆土が著しく浅い 場合には葉害が出易 いので注意する。 〔水田裏作〕
				㊟ g/a 40～50	砂 壤 土		
ANK- 553乳	土壌処理	播 種 後。	㊟ ml/a 30～50	砂壤土～埴 土	温暖地以西	1). 覆土が著しく浅い 場合には、葉害が出 易いので注意する。 〔水田裏作〕	
水稻刈跡	GW-7 水溶 (オモダカ)	茎葉処理	水稻刈取後4～5 日。	㊟ ml/a 300～400	全 土 壤	寒冷地南部 と 温暖地東部	1). 稲刈り時に茎葉の 損傷が少なく、緑色 を保っているものを 対象とする。 2). オモダカに稲ワラ の被覆のない状態で 散布する。
	MCP・ BAS液 (ミズガ ヤツリ)	茎葉処理	塊茎形成始(9月 中～下旬)	㊟ ml/a 40～60	全 土 壤	暖地早期栽 培	1). 茎葉によく付着す るように散布する。

註：1) アンダーライン(実線)は、本年度拡大された部分(尚、薬剤名のアンダーラインは本年度はじめて使用
基準の作成されたもの)。

2) アンダーライン(点線)は、その一部が拡大されたもの。